

【教養科目領域/基盤科目群】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
日本語表現法	NLA11_009	選択	1	1	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
小石川正文	教員控室	masafumi.koishikawa	授業終了後または Teams にて質問受付		
授業の目的・概要	本授業では、学生が日本語を使って自分の意見や思いを明確に表現できるようになることを目指す。具体的には、コミュニケーションスキルを高め、日常生活やビジネスシーンでの円滑なやり取りを促進するなど、表現の幅を広げることを目的とする。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習)	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	<input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク
学習上の助言	日本語表現力を高め、自分の意思を的確に伝えるためには、新聞や書籍などの活字を積極的に読む習慣を身に付けることが大切である。これにより語彙が増し、様々な場面で円滑なコミュニケーションを図ることが可能となる。				
教科書	特に指定しない。必要な資料は授業時に提示する。				
参考書	必要に応じて提示する。				
外部教材	必要な資料は授業時に提示する。				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	自分の意見や思いを明確に表現することができる。		HSU (1)、(2)、(4)、(5)		
②	基本的な語法と語彙を正確に使用することができる。		HSU (2)、(5)		
③	他者の意見を尊重し、受け入れることができる。		HSU (1)、(2)、(4)、(5)		
④	幅広い表現能力を身に付け、様々な場面で活用することができる。		HSU (1)、(4)、(5)		
⑤					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション-授業の進め方など日本語を知る。	講義・演習	新聞や書籍などで活字を読む習慣を身に付ける。講義内容を復習し課題に取り組む。	2	
2	話し言葉と書き言葉について学ぶ。	講義・演習	新聞や書籍などで活字を読む習慣を身に付ける。講義内容を復習し課題に取り組む。	2	
3	日本語の表記について学ぶ。仮名遣い、送り仮名、漢字表記、符号・記号	講義・演習	新聞や書籍などで活字を読む習慣を身に付ける。講義内容を復習し課題に取り組む。	2	
4	接続語について学ぶ。接続のおかしさ、接続の仕方のちがひ	講義・演習	新聞や書籍などで活字を読む習慣を身に付ける。講義内容を復習し課題に取り組む。	2	
5	発話の機能、文体と表現、比喻表現について学ぶ。	講義・演習	新聞や書籍などで活字を読む習慣を身に付ける。講義内容を復習し課題に取り組む。	2	
6	表現の要点のまとめ方、説明のコツを学ぶ。	講義・演習	新聞や書籍などで活字を読む習慣を身に付ける。講義内容を復習し課題に取り組む。	2	
7	敬語・待遇表現について学ぶ。	講義・演習	新聞や書籍などで活字を読む習慣を身に付ける。講義内容を復習し課題に取り組む。	2	
8	履歴書の書き方、面接の対応について学ぶ。	講義・演習	新聞や書籍などで活字を読む習慣を身に付ける。講義内容を復習し課題に取り組む。	2	
試	期末試験は行わない。達成度評価・評価のポイントを参照				

【教養科目領域/基盤科目群】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	50	0	0	50	100
総合力指標	知識・技術力	0	10	0	0	10	20
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	10	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	10	20
	コミュニケーション力	0	0	0	0	10	10
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	10	20
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	0	10
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点				フィードバックの方法	
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	授業で学修した内容により、期末レポートを作成する。テーマは事前に発表する。学修の内容が反映され、自身の意見が適切に表現されているか等で評価する。評価基準については授業内で提示する。				講評を付けて返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	毎回の授業内もしくは時間外学習として課題を課す。課題の提出及び課題の得点、出席状況などが総合的な評価の対象になる。評価基準については授業内で提示する。				講評を付けて返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
備 考							
他担当教員	なし						
教員の実務経験							
実践的授業の内容	日本語の理解を深めるために、具体的な事例を紹介するほか、必要に応じて視聴覚教材を使用して授業を進める。						
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業は対面方式であるが、授業の進捗状況、授業環境等(感染症等の影響)により、シラバスの変更もありうる。その場合には事前に告知する。</li> <li>・生成 AI を使用した作成は認めない。使用と判断される場合は評価の対象としない。</li> <li>・今後の学生生活やビジネスシーンなどで円滑なコミュニケーションを図ることは大切である。これを実践するために必要な日本語スキルの習得と向上を目指している。</li> <li>・欠欠状況は評価の対象となるため、欠席や遅刻をしないように努めること。</li> </ul>						